

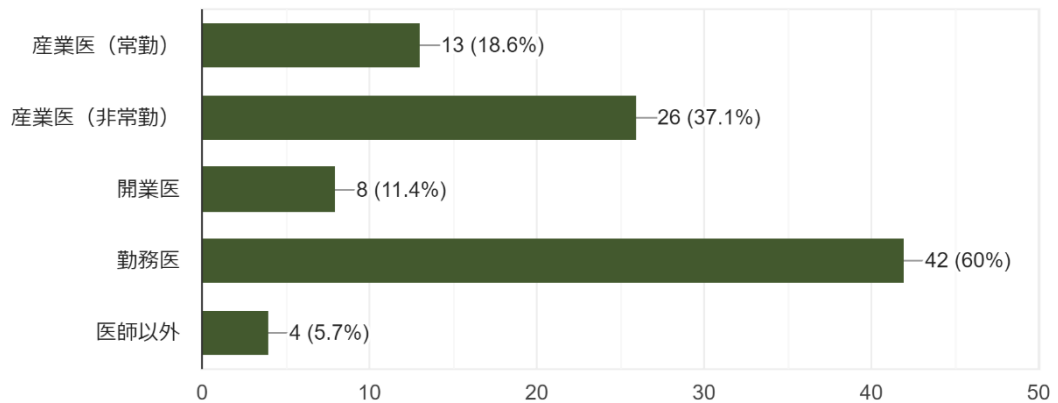
産業医慢性痛セミナー アンケート集計結果

2020年11月21日(土) 14:00~17:00 (ハイブリッド開催)

参加者数 計91名 (滋賀会場:28名 大阪会場:48名 オンライン:15名)

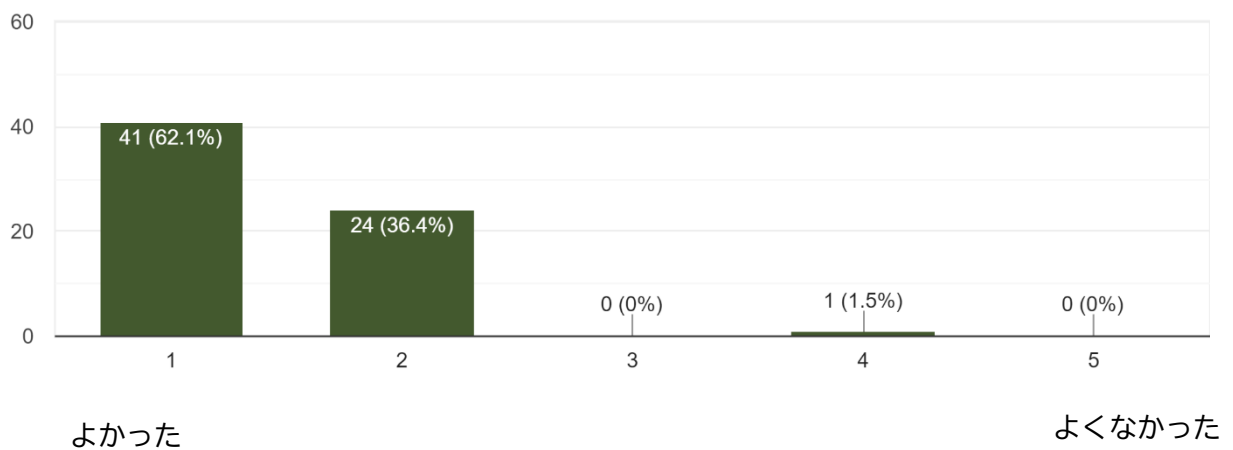
あなたの職種を教えてください。(複数回答可)

70件の回答

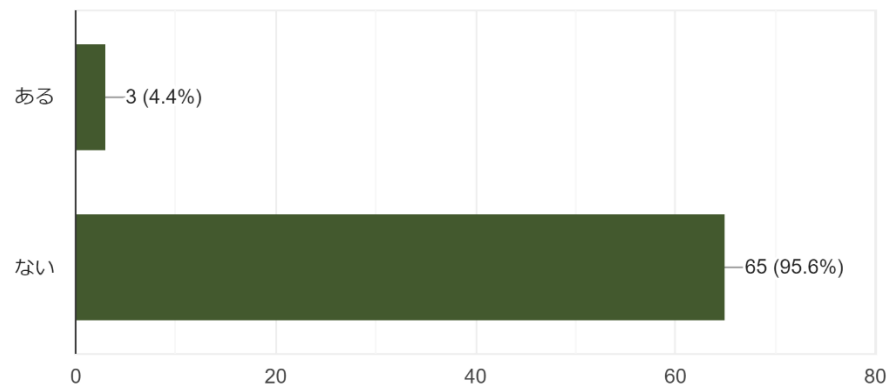


今回のセミナーの感想をお聞かせください。

66件の回答



今年度に慢性痛診療に関連し、本モデル事業の協力医療機関と連携されたケースがありましたか？
68件の回答



産業医慢性痛セミナーのよかった点を挙げてください。

- ・分かりやすかった
- ・多角的な視点から、実践的な内容であり、とても参考になりました。
- ・慢性的な痛みに対して様々なアプローチがあることを全ての先生がわかりやすく体系的に実践をもとにお話しいただいた点。
- ・慢性疼痛を実際に診ておられる先生方のお話がきけてよかったです
- ・漢方セミナーが興味深かった。
- ・具体的な症例提示もあり、わかりやすかった。
- ・『疼痛』の視点から初めて産業医学を学べた。
- ・実際の診療の例を交えながら漢方治療を学べてとてもよかったです。また、疼痛に応じて具体的な運動療法を学べてよかったです。
- ・漢方薬について知ることができた点
- ・漢方による慢性痛の治療が特に興味深かったです。
- ・産業医としての取り組み方法について、対応の各論について勉強できました。精神的な対応について今日どのように対応するか考えるよいセミナーでした。
- ・疼痛に対する漢方治療の実際は勉強になりました。
- ・総合的に治療していただくことがよくわかった。軽作業でも疲労がたまり、疼痛となることがわかってよかった。
- ・慢性疼痛に対して多職種の先生の話聞いてよかった。疼痛とストレスの関連について言及が多く学びになった。
- ・具体例が多く参考になった。講師が色々な立場で視点が違い興味深かった。

- ・作業関連性運動器疼痛に関して、まとめ直すことが出来てよかったです。
- ・総合的なお話から具体例までわかりやすくご説明いただきありがとうございました。新型コロナウイルス対策が必要な中、明るく楽しい雰囲気での研修会だったと思います。献血時の静脈穿刺後に訴える方もおられ、対応の参考になると思い受講させていただきました。慢性疼痛に対する理解が深まりました。
- ・全く分かっていなかったもので、全てが勉強になった。実例をあげて話していただけて理解しやすかった。
- ・講師の先生方、講演がわかりやすかったです。
- ・基礎的な点から各分野のポイントでまとめて教えていただき、自分の中でもまとめるきっかけになりました。
- ・漢方治療のポジョニングがよく理解できました。
- ・原因のわからない痛みに対する総合的な治療をしている痛みセンターがあるということを知った点がとくに有意義でした。
- ・近くに慢性痛の特別な取り組みをしている所があることが分かってよかったです。
- ・いろいろな職種に対応している
- ・慢性疼痛診療システムの中での理学療法士の役割を知ることができた
- ・症例、事例報告があることでより具体的なところまで勉強になった。
- ・職種によっては疼痛につながりやすいものも多いので、今後の対応に役立つと思う。
- ・麻酔科の先生が漢方を主に疼痛セミナーをして下さったのは大変よかったです。
- ・慢性疼痛に対して集学的に対処する概念を習得できました。
- ・どの内容も興味深く拝聴しました。
- ・非専門領域の知識を得たこと
- ・多職種の方々からのご講義をいただき、様々な観点からご教示いただけたこと。
- ・痛みに対する様々なアプローチを学べてよかったです。
- ・慢性疼痛について奥深さを知らされました。
- ・漢方治療の実際
- ・慢性疼痛と産業医の関わりが必要であると認識できました。
- ・漢方薬の具体的な処方例は分かりよかったです。
- ・多方面からの意見が聴けた。
- ・かなり実践的であった。
- ・漢方薬の使用や予防について知ることができた。
- ・具体的な話がでて理解しやすかった。
- ・事例が有ったこと。
- ・わかりやすかった。
- ・作業場での実例をふまえた講義であったのがよかったです。
- ・漢方を含めた痛みに対する予防治療

- ・心理社会的要因として職業ストレスへの対応・職場を想定した介入が大切であることがわかった。漢方薬による心理社会的アプローチも有効であることがわかった。
- ・リモート会場であったが、大変見やすかった
- ・内容はとてもよかったです。次に予定があるのできちんと 17 時に終了してほしいです。
- ・場所が便利で、午前中の仕事終わってから参加できたこと。
- ・看護師の娘が去年、手首の痛みをきっかけに全身の痛みで動けなくなり、頭 MRI 撮ったり専門医受診したり、大変だったのでこのテーマには関心がある。
- ・漢方の使い方
- ・全般にわかりやすい
- ・質問の段取りを前もって説明されわかりやすかった。
- ・講演内容がエビデンスに基づき、さらに経験的に裏付けられたもので納得できた。漢方治療の意義がよく理解できた。さまざまな職場の身体負荷について知ることができた。

産業医として慢性の痛みの問題についてご意見ををお願いします。

- ・産業マッサージを一次予防的に関わっています（現在滋賀医大で客員助教している薬剤師です）。慢性の痛みを感じていても受診をためらわれている方に適切に受療勧奨がしたいと考えています。
- ・産業医でないためスキップさせていただきます。が、会社員として正しい知識を現場にお伝えになる産業医の先生の役割は大きいと思いました。ただ現実には健康診断くらいかなという感覚あります。
- ・カウザルギーや労災等で医療機関や会社に対する怒りを持っている方の復職は大変むづかしく、弁護士に相談しているとさらに困難です。痛みで苦しんでいる労働者のためにも、労働者の相談を受けている弁護士からも集学的治療へつなげるようなアプローチも必要ではないかと思います（弁護士にとって利益相反になるかもしれませんが）
- ・職場環境は容易に変えられないため、疼痛治療も容易に解決しない。
- ・夢ですが痛みを客観視できたら！
- ・慢性痛としての頸肩腕障害と腰痛は頻度が多いのにも関わらず、とても悩ましい問題です。集学的な治療が進歩する一方で、我々臨床医の勉強不足のギャップが深刻化してきているように感じます。このような企画が特に頸肩腕障害と腰痛にスポットをあてて増加すれば良いと思います。
- ・産業医としての活動は現在していません。外来での症例で、勤務されている会社に産業医の指導が充分行われているか疑問に思う事が多々あります。
- ・慢性痛による仕事効率の低下をいかに防ぐか。
- ・社員さんに滋賀医大の慢性疼痛外来を紹介しようと思う。

- ・ 職場巡視の際に、改善点を指摘してもなかなか実行にうつせることは少ないこと。
- ・ 個人の問題としてとらえる側面と、作業環境の整備につなげる集団の問題として考える側面があり、なかなか突っ込んだアプローチがしにくい。
- ・ 労働者の QOL が改善される非常によい取り組みだと思いました。実際には健康診断の事後措置、メンタルヘルス対策などが主となっているので反省させられました。ストレス、痛みを受け止めて改善しようとする姿勢が重要と思いました。
- ・ 環境改善の難しさ。どの労働、作業でも痛みのないものがあるのだろうか。。。と思う。自分もある。
- ・ 予防の取り組み、及び慢性痛に困っている症例の対応がいかに重要かよくわかりました。
- ・ 慢性の痛みで業務ができず離職してしまった社員がいたもの事実です。今はそういう人達を紹介し、認知行動療法、理学療法教育を総合的に治療してもらえるようになればいいなと思いました。
- ・ こだわりの強い（発達障害圏）の患者さんも同様に治療できますか？
- ・ 3管理5管理に加えてメンタルヘルスが関与する
- ・ 今後そういった事例に対応する際には多いに今回のセミナーで学んだことを参考にさせていただきます。
- ・ 痛みが長引く要因として、作業環境・姿勢だけでなく、ストレス要因も大きいと感じる。
- ・ オルトペティクスの部位・場所、色々な要因により老療するのもよいと思う。重量物の移動、不自然な姿勢も注意。
- ・ 産業医としての実務未経験の為、控えます。
- ・ 『100%治るまで復職できないと言われる』とよく聞かされます。雇用者への慢性疼痛の教育も重要と思います。
- ・ 慢性痛のため休職が長期になる場合もありどのように復職につなげていくべきかが課題となっています。
- ・ 心因性疼痛の鑑別診断
- ・ 今後就業者の高齢化により、運動器疼痛に対する分野は、より就労支援に重要な位置付になるものと考えられます。
- ・ 今後、積極的にみていきます。
- ・ 労働条件は会社によって違うので、実際の労働の様子を確認することの重要性を再確認した。
- ・ 腰椎病（ヘルニア等で）復職可能の判断が難しい場合が多い。
- ・ 背景が複雑・多様化しており、一筋縄ではいかないと思った。
- ・ 作業内容の軽減やロボット導入が必要かと思われます。
- ・ いかに産業医の立場で応用できるか。
- ・ 様々なアプローチから、慢性痛の取り組みについて知ることができた。
- ・ 頻度が高く、毎日の生活に影響を及ぼす。解決すべき重要な問題

- ・労働者に啓発する。
- ・会社からの評価が下がることを心配して、産業医相談を希望しない社員の方が多いようなので、啓蒙活動は重要だと思う。

今後どんな企画を希望されますか。

- ・ヘルスケア関連と慢性疼痛
- ・未病段階（医療にかかる以前）で一次予防する方法についての助言
- ・コロナの影響、労働環境に与えた影響評価のはじまり
- ・集学的治療は大病院が多いので、産業医から直接紹介状を書いてアプローチすることは保険診療上難しいので、産業医からのアプローチをどうするのかについての企画があるとありがたいです
- ・疼痛をもう少し具体的に『頭痛』とかに分けてもらえると興味をもちやすい。
- ・臨床（一般開業レベル）と研究成果の断絶を埋める勉強会・疼痛（作業関連にとどまらず癌によるものまで含んで）
- ・ペインクリニックの実際について
- ・産業医講習 心理的アプローチも産業医として身につけられるようにしたい。痛みに対して複合的な講習も。
- ・初心者なのでこのような座学でまず学びます。
- ・精神ストレスと慢性痛の関連とその予防についての企画を希望します。
- ・実際のケースカンファレンスの内容、医療機関間での連携方法について。今回のような知見が広がるような内容は勉強になりました
- ・事例報告検討会など産業医の交流の場
- ・工場見学（大阪はよくやっている）小生も時々見学に行く。専門的な工場が多い。
- ・臨床心理士に役割や実際の職務を多くの医療者に知っていただきたいです。
- ・復職支援の事例解説（成功例、困難例等）
- ・慢性疼痛に伴う疼痛の対処法、指導内容等について基本的な講義を希望
- ・線維性筋痛症について
- ・産業医研修を兼ねたセミナー回数の増加
- ・デジタル機器の対策
- ・ストレスチェック後の高ストレス状態の方の職場で引き続き仕事ができる様な事業所の対応の仕方
- ・精神科領域
- ・精神疾患について
- ・慢性の痛みの症状を持っておられる方が多数いるので、対処が必要だと思います。
- ・心のケア

・うつ病の社会復帰。適応障害のリワーク

このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

60件の回答

